

気賀っ子応援団

～気賀小コミュニティ・スクールだより～

第6号 令和4年6月

「気賀小学校」×「地域の力」

「学校は地域に支えられている」「気賀小の伝統だなあ」気賀小に戻ってきて2年目がスタートして実感したことです。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大から3年目。すでに、当たり前だった学校の教育活動が実施できず、次第にコロナ禍に対応した活動が定着してきています。「当たり前を見直す」そんな合言葉が多く聞かれ、本校でも活動自体を自粛、変更することが多くなってきました。この1年、気賀小学校で子供たちを見てきて、『気賀小らしさ』をもう一度見直すべきかもしれないと思いました。「気賀小らしさ」の原点って何でしょうか？先月、急逝された渡辺直人元校長が39年前に出版した本「学校づくりの記録」（1983）の中で次のように述べています。

『気賀小教育』とは、気賀小の学校教育目標を実現することである。そして学校教育目標を実現される過程において、気賀という地域の風土、自然、歴史、文化そして気賀の住民の昔から伝わる温かい人情に触れ動きかけ、気賀小でなければできない個性的で創造的な教育をいうのである。』

気賀小学校は学校教育だけで子供たちを育てるのではなく、気賀という地域との協働・連携によって、「気賀小らしい」子供たちを育てることを目指していたのです。まさに「地域の学校」、コミュニティ・スクールを目指していたのが気賀小学校だったのです。

コミュニティ・スクールが3年目を迎えた今年、4月当初から家庭科の調理実習や裁縫の授業の学習支援に地域や保護者の方々が協力してくださっています。初めて包丁を使う子、玉留めをする子…特に5年生の家庭科は初めて尽くしです。キャリアを積んだボランティアの方々と一緒に作業をすることで、子供たちの学びをスムーズかつ安全に進めることができます。

それだけでなく、短時間ですが、コロナ禍ではなかなかできない、ボランティアの方々との交流ができます。実は、これが大切なのです。新型コロナウイルス感染症は人と人との関わりを断絶させてしまいました。子供たちの人間関係はとても狭くなっています。そんな中でも感染対策をした上で、このように地域や保護者の方々が学校に足を運んでくださり、子供たちと関わってくださることで、少しずつですが、子供たちの心が温かくなっていくように感じています。

人を教育できるのは人だと思います。前回、令和の教育のキーワードは「個別化」と「協働」だと書きました。子供たちにはICTを使った個別化された学習も大切ですが、地域の方との協働による学びは子供たちの学ぶ力を支えているのです。

気賀小学校は「地域の学校」です。どんなに学校だけで教育活動を充実させても、「気賀小らしい」子供たちを育てることはできません。新しく「気賀っ子応援団」に参加してくださる地域の方、保護者の方が増えてきました。今年も、新型コロナウイルス感染症への対応をしながら、少しずつ活動を充実させていきたいと考えています。

これからも気賀小教育への御理解と御協力をお願いいたします。



活動の様子

1年生 あさがおの種まき



2年生 野菜苗植え



3年生 マット運動



5年生 ソーイング



5・6年生 調理実習



気賀っ子応援団、募集中！！

気賀小では、引き続き、授業支援のボランティアをしていただける方を募集しています。校外学習の引率補助・家庭科（ミシン・裁縫・調理実習）補助、読み聞かせ、昔の遊び講師など、興味のある方は気賀小学校CS担当もしくは学校支援コーディネーターへ御連絡ください。また、農業体験や工場見学をさせていただける方や企業がありましたら、ぜひ御協力ください。

また、保護者ボランティアも募集しています。日頃のお子様の様子を見るチャンスです。保護者の方から近所の方やおじいちゃんおばあちゃんにもぜひ御案内ください。

気賀小学校 電話：053-523-0158

